

とある閑静な住宅街の人妻ナンパスポットで出会った  
女性とホテルへ直行

シャワールームで激しいセックスする青年



親族関係の事情があり、田舎に引っ越して2年ほど住んでいるマサシ。

小さなマンションで一人暮らし。フリーターをして絵描きの夢を追って  
いる。

田舎といっても田舎の都市ではあり、ショッピングモールなどなんでも一通り揃ってはいるが、山々に囲まれ少しやはりどうしても退屈ではあった。

仕事ばかりで楽しみがなかった最近。少し羽を伸ばす意味合いも込めて都会へ気晴らしに行くことに。

電車で日帰り。飲食店で何か食べて少し観光して帰るという予定であった。

ちなみにマサシはペニスだけは非常に大きい。

銭湯へ行っても温泉へ行っても、人から羨ましい眼差しで見られるほどのサイズであった。

調子に乗ってパイチンにしている。

根元まで太いペニスがくっきりと見えるいやらしいマサシの股間……。

.....

改札をくぐり駅へ。

比較的ゆっくりと田舎道を都会に向けて進む田舎特有のまだ少し古臭い外観の二両編成ワンマン列車。

舗装されきっていない枕木のレールの上。若干ではあるが古臭い列車の  
軋み音が響く。

そのまま揺られて数時間。窓から見る景色癒されながら進んだ。

そして降り立った高いビルの並ぶ都会の駅前は大いに心を広々と解放  
してくれるものであった。

田舎の自然に癒される、という都会っ子とは真逆の現象を思う存分堪能  
するマサシ。

夜になり、ふと思い立って帰りに閑静な住宅街の駅に下りた。

街灯が雰囲気醸し出している静かで穏やかな夜の街。

有名な橋をネットで見つけそこへ向かうため、コンビニの方へタクシーを拾いに。

コンビニの利用者は少なめ。数台タクシーが停まっている。

手前に大きな神社があった。

「川の方へ向かってください」

マサシが告げると・・・・・・・・

運転手はそっと窓の方に手を向け隣を指さした。

「隣の女を見てみなよ、君」

見ると、隣のタクシーは発車することなく、エンジン音も停まっている。

じっと後部座席に座っている女性がいる。

運転手と何か話しているようだ。示し合わせをしているように見えた。

「ここでタクシーを拾う女性はそっちが多いんだよ」

それだけを聞いただけではすぐには全てを理解できなかったが、しばらく話していると……。

いわゆるラブホ街のナンパスポットらしい。

運転手は続けた。

「声をかけてみてはどうだい？」

田舎から観光に来たと告げたマサシ。

鬱憤がありそうな……垢ぬけない顔つきに見えたのか。運転手は更に続ける。

「大胆に女を拾うっていうのも、やってみる価値はあるよ。君……  
おとなしく見えるからね」

マサシはふと友人の言葉を思い出した。

金持ちの女ほど男に飢えているらしい……

暗がりで見えにくいのが、その女性は派手なアクセサリをつけている。服も高価そうだ。

大きな胸が窮屈そうなくらい後部座席左のドアの窓にひっついて座っている彼女の上半身に乗っかっている。

その上に手を置いてスマホを触っている。



タクシーの車内灯の明かりで谷間まで少しだけ見えた。

マサシはまだ20代のサラリーマン。

その健全で抑えようのない下半身が反応するのは無理もなかった。

マサシは一日で何度も射精する。放っておくとパンツの分厚い絹糸を破  
いてしまうことさえあった。

————— 体験版は以上になります。—————